



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

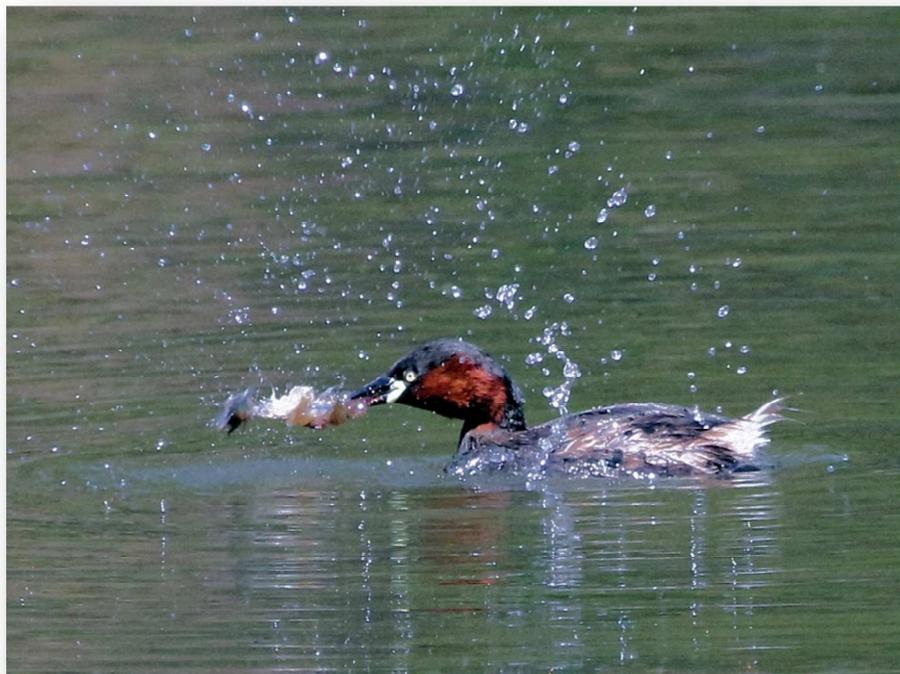
# しらこぼと

# 2020.4

No. 433

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# さいたま市・民家園周辺定例探鳥会の紹介

伊藤 芳晴（川口市）

1995年10月から「浦和くらしの博物館民家園」を集合地とする民家園周辺定例探鳥会を始め約25年になります。これは、1992年に始まった差間探鳥会をリニューアルしたもので、当時は東浦和駅集合、見沼通船堀を経由して見沼田んぼを歩いていました。

環境も大きく変わりました。最も大きな変化は、田園地帯だった差間地区に10数年前、水害対策を目的とした芝川第一調節池ができた事です。これによって鳥相も大きく変化しました。

種類が増えたのは水鳥と猛禽です。以前、水辺は芝川と細い水路しかなかったために、カモ類などはカルガモ、コガモ等数種類でした。今では冬の時期は、多い時で10種類以上のカモ類、そのカモ類を狙うハヤブサ、オオタカ、ノスリなど、多い時で5～8種類の猛禽が観られます。

逆にカッコウやムシクイ、ヒタキの仲間などは大きく減ったか、まったく観られなくなりました。

## ● 春 4月 見沼ヘルシーロードコース

浦和くらしの博物館民家園⇒見沼代用水東縁⇒大崎公園裏周辺⇒国昌寺周辺 ⇒芝川沿い⇒浦和くらしの博物館民家園

4月のこのコース(地図の実線コース)は、見沼田んぼの春を満喫できるコースです。桜が満開の時期は、うららかな陽光と相まって、本当に気持ちよく歩くことができます。

スタートは国道463号線の信号を渡り、見沼代用水東縁に向かいます。アオジ、ホオジロやカワラヒワ、ツグミ。

用水に架かる小さな橋を渡り、側道を右へ。桜並木を見ながらヒヨドリやジョウビタキ。大崎公園の西側を通過し、園芸農家が多く、様々な花が咲く地域を丘の上に登っていきます。細い道で左右の花々を観ながらシメ、メジロの姿やウグイスの囀り。

先に進んで有料道路の下をくぐり、坂の上で、少し休憩。以前は見晴らしが素晴らしく色々な鳥達が確認できましたが、今では前方の木々が成長して、見通しが利かずチョット残念。

10分ほどの休憩後、用水沿いの斜面の上の1mもない細い道を。左が林、右が農地のこの道は、鳥の声が多く、ルリビタキが姿を見せてくれたこともありました。

その先の大きな農家をグルッと廻ると、国昌寺に到着します。トイレも自販機もベンチもあるここで、また10分ほどの休憩。上空のタカ類も気になります。

休憩が終わると、交通量が多めの道路に気をつけながら芝川へ。堤防までの間にキジやツグミたち。堤防に上がると、カモ達やシギの仲間、オオジュリンやバンの仲間に出会えるでしょう。ゴールを目指して堤防沿いの道路をのんびりと歩いていくと、タヒバリやベニマシコ、時にはアトリなどにも会うことができます。2時間半くらいの行程です。

## ● 初夏 6月 差間コース

浦和くらしの博物館民家園⇒芝川⇒芝川第一調節池 ⇒浦和くらしの博物館民家園

4月以外の探鳥会は、芝川第一調節池を一周するコース(地図の点線コース)になります。このコースで一番困ることは、トイレが無い事です。また、日差しを避ける所も少ないので、6月や10月は熱中症が心配です(8月は休みです)。

6月のメインは、以前はカッコウでしたが、今の主役の一つはコアジサシです。毎年のように数羽が来てくれて、素晴らしいダイビングをみせ、そのたびに参加者の皆さんから歓声があがります。

そして初夏といえばオオヨシキリ。最近めっきり数が減りましたが、朝から「ギョギョシ、ギョギョシ」と大声で鳴くあの姿は、初夏の風物詩です。

カワウやゴイサギ、オオバン、カイツブリ、ツバメ達などは子育ての真っ最中。かわいいヒナの様子を観察できるかもしれません。

### ● 秋の渡り 10月 差間コース

浦和くらしの博物館民家園⇒芝川⇒芝川第一調節池⇒浦和くらしの博物館民家園

調節池ができる前は、通過していくヒヨドリの群れ、上空を飛ぶサシバ、木々で毛虫を食べるツツドリ、そして刈り入れの終わった田んぼのノビタキが楽しみでした。

しかし調節池が出来た頃から、種類も数も減ったような印象があります。サシバもそうですが、特にノビタキになかなか出会えなくなりました。

また、最近始まった芝川の護岸工事で、ツツドリの止まっていた木々がほとんど切られてしまいました。心配です。

でも、見どころはたくさんあります。人気者のジョウビタキやカケス、秋の定番モズの高鳴き、アリスイも近年はちょくちょく出てくれるようになりました。そして来始めている冬のカモ類たちなどです。

### ● 本番の冬 12月～2月 差間コース

浦和くらしの博物館民家園⇒芝川⇒芝川第一調節池⇒浦和くらしの博物館民家園

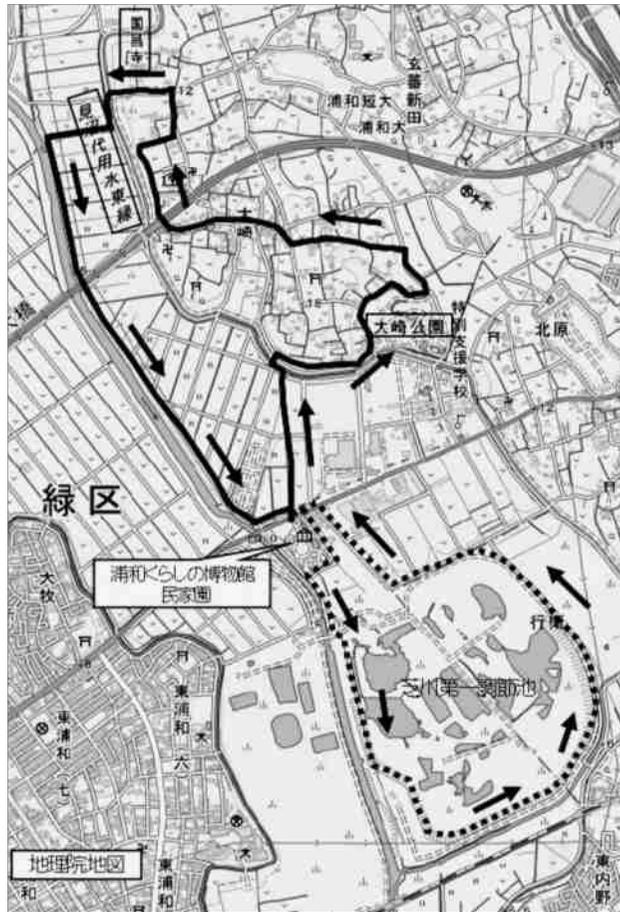
風を遮るものがない、途中でトイレもない、休憩場所もない、しかし、民家園周辺探鳥会の最大の魅力の時期です。

本当に多くの種類の水鳥達が来てくれるようになりました。その一つがハクチョウたちです。数年前から、オオハクチョウ、コハクチョウのあわせて2羽～10羽ほどが優雅なしぐさで、参加者を楽しませてくれています。

カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリもすっかり常連です。昨年12月には県内でも珍しいアカエリカイツブリも出現しました。

そして最も種類も数も多いカモの仲間。ヨシガモ、ミコアイサや、まれにトモエガモなど一番多いときで、11種類を数えます。

もう一つの人気者といえば、タカの仲間でしょう。冬場だけでなく1年中観察できます



が、やはり調節池ができた事で、種類が増えました。いつも観られるチョウゲンボウやオオタカ、時折出てくるハヤブサ。冬場はチュウウヒ、ノスリ。他にもハイタカやミサゴなども。ここでは珍しいトビもいれると8種類ほどと出会える可能性があります。

近年は、大雨や台風による周辺の水被害が深刻で、ついに大規模な芝川の護岸工事が始まっています。探鳥会が行われる日曜日にも、休みなく工事が進められています。調節池のすぐそばを流れる芝川の、今まで草木に覆われ、鳥達の隠れ場所や巣になっていた土の岸は、すっかり変貌しつつあります。

長年この周辺地域に慣れ親しんだ者からすると寂しい気持ちです。

今後も、この周辺の環境に愛着を持ちつつ、見守っていきたいと思っています。

# 2009年から2018年までの春のシギ・チドリ類調査結果

日本野鳥の会 埼玉 調査部

2020年春のシギ・チドリ調査は、台風19号の影響で荒川総合運動公園が閉鎖中のため、中止としました。

調査は秋と同じ4地区（2019年11月号No.428参照）で行っています。そこで、秋の結果と比べられるように、2009年～2018年の10年間の各地区の調査結果をまとめました。

総個体数は816羽で、As区が593羽と1番多く、一番少ないA区は58羽でした。これは秋の結果とは逆になりました。総種類は10種（タシギ属不明種は種数に入れない）で、ムナグロが1番多く669羽、2番目はコチドリで68羽でした。総個体数の8割以上がムナグロだということが分かりました。

（石井 智）

## 各地区の結果

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	総個体数
A区	4	3	2	7	3	7	3	2	27	0	58
As区	321	5	0	45	174	2	0	4	40	2	593
B区	3	3	5	2	19	3	8	14	6	8	71
A'区	31	0	14	1	40	1	0	0	1	6	94

## A区の結果

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	総個体数
ムナグロ			1	2					25		28
コチドリ	4	2	1	5	2	7	1		2		24
チュウシャクシギ							1	1			2
オジロトウネン					1						1
タシギ属不明種		1					1	1			3

## As区の結果

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	総個体数
ムナグロ	320	5		43	171				39		578
コチドリ				2	1	1		4		2	10
タシギ	1								1		2
チュウシャクシギ					2	1					3

## B区の結果

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	総個体数
ケリ			1								1
ムナグロ					4						4
コチドリ		2	2	1	5	1	4	2	4	2	23
セイタカシギ							1				1
チュウジシギ			1								1
タシギ	1	1		1	8	2		9	1	6	29
チュウシャクシギ	2						2	3			7
タカブシギ			1						1		2
タマシギ					2						2
タシギ属不明種							1				1

## A'区の結果

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	総個体数
ムナグロ	17		6		36						59
コチドリ	3			1	3	1				3	11
チュウシャクシギ	11		8						1		20
タカブシギ					1						1
タシギ属不明種										3	3

## 海鳥観察の旅だより

海老原美夫(さいたま市)

新型コロナウイルス問題が深刻になる少し前に、久しぶりに鳥友たちと茨城県北部・福島県南部の漁港巡りをして福島で一泊。海鳥たちと、福島の酒・魚を楽しんで来た。埼玉県内では見ることの少ない鳥たちを紹介する。

**シロガモ。**懐かしい鳥だ。埼玉県では、旧浦和市の太田窪、大谷口などに広がる工事現場内の池に♂成鳥1羽が飛来した。コガモたちと一緒に行動しているのを、当時中学2年生だった近藤崇君らが1984年12月8日に発見。電話連絡を受けた私は、風邪で寝ていたのにタクシーで駆けつけて撮影。近藤君らの名前とともに新聞に掲載された。私の手元にある資料では、これが県内唯一の例である。



**ピロードキンクロ。**なんか目つきが悪く見えるのは、目の後ろの白い模様のせい？ ♂成鳥は目の下から後ろにかけての白い模様がもっと大きいので、これは少し若いみだろう。



当県では、1975年12月10日から17日まで秋ヶ瀬公園で埼玉野鳥研の人たちに♀1羽が観察されたのと、1995年11月25日戸田市彩湖で高橋達也会員が♀1羽を観察したが、写真は撮影されなかったとの記録がある。

**クロガモ。**海では比較的良好に見られるカモである。♂は黒い全身に黄色のくちばしが目印。県では、1970年4月28日、利根大堰付近で♀1羽が飛び去るのが目撃され、1982年4月に



蓮田市黒浜沼で撮影された。1990年3月24日には妻沼町の小山川と利根川の合流地点付近で井上茂会員によって撮影された。その後1990年11月本庄市坂東大橋下流で♂1羽、1995年11月戸田市彩湖で♀1羽の観察報告などがある。

**ウミアイサ**の♂も近くから撮影できた。かつては「宮内庁の越谷鴨場で目撃記録がある」との情報があったが、1985年に川越市伊佐沼で、



1990年11月8日本庄市坂東大橋下流で写真撮影され、1995年と1996年には戸田市彩湖などで観察された。でもやはり県内では、観察例の少ない海鳥である。

**アカエリカイツブリ。**県教育委員会が1978年に発行した『埼玉県動物誌』によると、「狭山湖で1969年4, 5, 11, 12月に観察されている。(中略)海のない埼玉県に飛来することはまれである。」とされているが、近年彩湖で冬に時々観察されることがある。カンムリカイツブリの群れの中に、少し小さくて、くちばしが黄色の鳥がいたら、アカエリカイツブリかもしれない。



県内で冬に観察される白黒のカイツブリは、ハジロカイツブリとミミカイツブリの2種である。

両者は、くちばしの形や、顔の白黒の境界線の形などで識別できる。ミミカイツブリはハジロカイツブリより海で生活することが多く、内陸の埼玉県に飛来するのは、ハジロカイツブリより少ない。飛来するのは冬なので、夏羽の黄色の飾り羽は見られない。



## 野鳥情報

**さいたま市岩槻区新方須賀** ◇10月21日、電線にハシボソガラス4、ミヤマガラス2(鈴木紀雄)。

**春日部市増富** ◇10月21日、田んぼで採餌中のミヤマガラス20(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜 国立東埼玉病院** ◇10月26日、カケス3+。ムクノキに群がるヒヨドリの中にマミチャジナイ1、うれしい。10月27日、アカハラ1、シロハラ1。他にもツグミ類がいるが日没で確認できず。10月28日早朝、ヤマガラスの小群。「ヒーコーキー」とイカルの声。ツグミ類は「シーィッ」と声のみ(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜沼** ◇10月26日、上沼北側のヨシ原で水路にカワセミ♂1。アリスイ1とアカゲラ♀1が同じ灌木に。シメも来ている。10月27日夕刻、アカゲラ2がからむ。オオタカ若鳥が飛翔後、ミサゴも飛ぶ。アリスイの声が響く(鈴木紀雄)。

**渡良瀬遊水地** ◇10月26日、ジョウビタキ、アオジ、カシラダカ、ベニマシコ、オオジュリン。ノビタキ2が路上で採餌。コチョウゲンボウ♀がヨシ原を低空高速飛行。遠方にミサゴにからむハイタカ(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区 岩槻文化公園** ◇10月27日、アオジが入った。カケスも。シメが上空通過。ヤマガラスも来ている。オナガ13が元荒川を渡って行く。ホトトギス若鳥と思われる個体1。セグロセキレイ2。エナガ20+がにぎやか。ヒヨドリが水浴びに夢中(鈴木紀雄)。

**蓮田市駒崎 N36.0110 E139.6274** ◇10月26日、田んぼでミヤマガラスを今季初めて見た(関口明宏)。

**蓮田市関戸 N36.0081 E139.6309** ◇10月26日、田んぼでアリスイを見た。朝の散歩コースでは初めて(関口明宏)。

**鴻巣市大間一丁目** ◇10月27日午前10時10分頃、隣家にジョウビタキ♀1。今季初認。同日午後12時50分ごろ、同じ場所に今度は♂1羽が飛来。翌28日午後12時30分頃、前

日の2羽と思しきジョウビタキが追いかけて。当所にいつくのは、どうやら♂のほうのようだ。11月9日午前8時頃、ツグミが1羽、鳴きながら上空を通過していった。今季初認(榎本秀和)。

**草加市柿木町 そうか公園** ◇10月27日、キクイタダキ1(下写真)、マミチャジナイ1。11月2日、ツミ♂成鳥1、アカゲラ♀1、亜種リュウキュウサンショウクイ♂1、オオムシクイ1、キビタキ♀型1、キクイタダキ4、クロジ♂若鳥1♀2。池北側の林内で亜種リュウキュウサンショウクイを観察した。市内では初記録。11月16日、オシドリ♀1(鈴木 功)。



**草加市柿木町** ◇10月27日、ノビタキ4、カシラダカ、オオジュリン。11月2日、柿木田んぼでハイタカ♀型1、タゲリ2、上空通過。ホオアカ2(鈴木 功)。

**上尾市地頭方** ◇10月27日、最近大きな台風が続いていた為、毎年見られていた鳥たちが来てくれるか心配でしたが、ジョウビタキは今秋、初確認。♂5、♀3。近くの梨畑にエナガ10、カワラヒワ12(村越百合子)。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇10月26日、ナラ林で12羽のカケスが枝止まり。私に驚いたのか騒がしく鳴きながら隣の屋敷林に次々に移動した。セグロセキレイ1、休耕畑で採餌。此处では久しぶりのセグロセキレイだ。10月30日、4羽のカケスが屋敷林から隣の屋敷林に移動。26日に比べ8羽減少。他のところに移っていったか?(長嶋宏之)。

### 表紙の写真

#### カイツブリ目カイツブリ科カイツブリ属カイツブリ

2018年4月、大宮公園で、大きすぎる獲物を飲み込むのに四苦八苦していました。

榮 武男(春日部市)



新型コロナウイルス感染防止のため  
2月29日～3月末、及び、4月中の全探鳥会を中止  
代表 山部直喜

2月26日12:41、「2月29日～3月末の全探鳥会の中止」の決定を当会全役員、及び、『しらこぼと』を毎月送付している各新聞社、日本野鳥の会に連絡しました。

決定は普及部長、副代表2人と私の4人で行いました。当会の規約ではこのような事態における対応方法を規定していませんが、緊急やむを得ない措置でした。

このことは、当日12:53に首相より「イベント2週間自粛」要請、翌27日には「3月2日から春休みまでの臨時休校」要請、併せて同日、日本野鳥の会理事長より「探鳥会等の中止または延期のお願い(右参照)」があったことを考えますと、会員の皆様にも十分ご理解いただけたものと思っています。

さらに3月10日、首相より「10日間程度のイベント自粛の延長」要請が出されました。

そして、3月12日までに開催されたメール交換による役員会で普及部長の提案「4月の探鳥会は新型コロナウイルス感染拡大に関して収束が見通せないため、すべて中止とする。ただし、11日(土)羽を知る会(ヤング)は7月に延期する(日程は未定)」「5月の予約探鳥会は実施の方向で準備を進める。ただし、担当リーダーと普及部長が相談して中止が妥当と判断した場合は、議題として4月の役員会に上程する。4月役員会開催日前からキャンセル料が発生する場合は、代表・副代表・普及部長の4名で協議の上、中止の可否を決定することができる」が承認されました。

また、3月半ばに4月の感染状況を見通すのは困難であるが、①再開するメリットよりも再開するリスクを重視(訴訟等の法的問題や団体及び会員の風評被害を含む)、②担当リーダーの探鳥会における感染防止のための精神的な負担を勘案、③生活習慣病など持病のある、あるいは介護している家族や幼児がいるリーダーの身体及び家族の状況に配慮して判断したもの、との補足説明もありました。

これからも危機管理のアンテナを高くして対処していく所存です。皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

令和2年2月27日

日本野鳥の会 連携団体各位

新型コロナウイルスに関連した探鳥会等の中止または延期のお願い

(公財)日本野鳥の会理事長 遠藤孝一

日ごろより、日本野鳥の会の活動にご支援いただきありがとうございます。

さて、皆様ご承知のように、新型コロナウイルスの感染が拡大しつつあります。感染の流行を早期に終息させるためには、この1、2週間が極めて重要な時期となります。

つきましては、連携団体が主催する探鳥会および室内イベント(以下、探鳥会等)を、3月末まで中止または延期していただきたく、お願い申し上げます。

全国に34,000人の会員を持つ日本最大の自然保護団体として、感染拡大防止に努めることが、今は何にもまして重要な責務と考えます。探鳥会等を中止するということは、とても大きな、そしてつらい決断になりますが、ご理解くださいますように重ねてお願い申し上げます。

1 中止または延期していただきたい期間

2020年3月末まで(4月以降は、状況を見て判断する)

2 中止または延期していただきたい理由

- (1) この1、2週間が、国内で急速に感染が拡大するかどうかの瀬戸際であり、極めて重要な時期であること
- (2) 探鳥会等には、感染した場合重篤な症状になるリスクが高い高齢者、基礎疾患や障害をお持ちの方、子どもなどの参加が多数見込まれること
- (3) 探鳥会等では、参加者の連絡先や住所までは把握されておらず、万が一その行事参加者の中に感染者がいた場合、すべての参加者について濃厚接触者として追跡できる十分な名簿が用意できないこと
- (4) 探鳥会等の実施にあたって、担当リーダー等が心配や不安を抱いたまま開催することは、リーダー等に大きな精神的な負担を強いることになること

## 埼玉 Young 探鳥会・室内講座 「羽を知る会」(要予約)

《開催延期》 室内イベントで感染リスクが高いことを考慮し、開催期日を7月に延期します。詳細は、会場の予約確定後、HPに掲載します。

## シギ・チドリ類 県内調査

期日：4月29日(水・祝)《開催中止》  
集合場所の荒川総合運動公園閉園中のため。

## 秩父市・中津川探鳥会 (要予約)

期日：5月9日(土)～10(日)  
集合：9日、中津川バス停前14時20分  
交通：秩父鉄道三峰口駅から西武バス中津川行き13時発で終点中津川下車(14:05着)。  
解散：10日、集合場所にて午前10時ころ。  
費用：12,000円を予定(1泊2食付き宿泊代、親睦会費、保険代を含む。過不足の場合、当日精算)。

定員：15名(会員限定、申込者多数の場合は抽選)。最少催行人数6名。

申し込み：①往復はがきで長野誠治( )宛、  
②メールで fukyubu@wbsj-saitama.org 宛、①または②の何れかで、住所、氏名、生年月日(保険加入に必須)、性別、電話番号、会員番号を明記してお申し込みください。4月11日必着・締切りです。

担当：長野、青木、井上、佐野  
見どころ：秩父(旧大滝村)最深部での探鳥会。キビタキやミンサザイの賑やかなさえずりを。  
その他：宿泊は男女別の相部屋です。個室は用意できません。

## 長野県・乗鞍～上高地探鳥会(要予約)

期日：5月16日(土)～17日(日)  
集合：16日午前6:30 大宮駅西口または午前7:00 川越駅西口の2ヵ所。  
解散：17日午後9:00 川越駅西口または午後9:45 大宮駅西口の2ヵ所の予定。ただし、渋滞等により変更することがあります。  
交通：集合地から貸切バス(27人乗り中型)。  
費用：40,000円の予定(往復の交通費、宿泊

代、2日目の昼食代、保険代等を含む。過不足の場合は当日清算。集合・解散場所までの交通費は各自負担。)

定員：20名(応募多数の場合は先着順、埼玉会員優先)。最少催行人員16名。

申し込み：往復はがきに住所・氏名(ふりがな)・電話番号・性別・生年月日・年齢(保険加入に必要)・集合場所が大宮か川越かを明記して、入山博( )まで。4月1日消印から有効受付とします。

担当：入山、近藤、佐野、長谷部  
見どころ：雪壁の乗鞍と探鳥にベストシーズンの上高地を訪れます。乗鞍ではものすごく運が良ければライチョウが見られるかも。上高地では、コマドリ等の夏鳥を。  
その他：宿泊は「五千尺ロッジ」で、1部屋2名。ご夫婦・親子での同室は可。それ以外は男女別の相部屋で個室の用意はできません。参加者には後日詳しい案内を発送。

## 長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月23日(土)～24日(日)  
集合：23日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。  
交通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:46→長野8:38着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:46→長野8:43着)など。  
解散：24日16時頃、長野駅前。「あさま624号」(16:23発)に乗車できるように調整。  
費用：12,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。  
定員：20名(先着順、埼玉会員優先)。  
申し込み：往復はがきに住所、氏名(ふりがなも)、旅行時の年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充( )まで。4月1日消印から有効受付とします。  
担当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)  
見どころ：夏鳥たちの競演。小鳥たちのコーラスを満喫。  
その他：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

## 2020年5月～8月の行事予定

探鳥計画を立てるのにご利用ください。変更されることもありますので、確定情報は、その月の会誌『しらこぼと』の行事案内でご確認ください。

月	日	曜日	探鳥地など
5	3	日祝	幸手市 宇和田公園
	5	月祝	千葉県 谷津干潟
	9	土	長野県 中軽井沢 Ladies'
	9-10	土日	秩父市 中津川 (予約)
	10	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	16	土	加須市 加須はなさき公園
	16-17	土日	長野県 乗鞍・上高地 (予約)
	17	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	23	土	群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young
	23-24	土日	長野県 戸隠高原 (予約)
6	4	木	羽生市 羽生水郷公園 (平日)
	7	日	北本市 石戸宿 [定例]
	7	日	さいたま市 民家園周辺 [定例]
	14	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	21	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	28	日	支部総会
7	5	日	群馬県板倉町 渡良瀬遊水地
	11	土	吉川市 サギのコロニー観察会①
	12	日	北本市 石戸宿 [臨時]
	18-19	土日	長野県 池の平・軽井沢発地(予約)
	19	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	26	日	狭山市 入間川 [定例]
8	2	日	北本市 石戸宿 [定例]
	8	土	吉川市 サギのコロニー観察会②
	15	土	千葉県 三番瀬海浜公園
	16	日	さいたま市 三室地区 [定例]
9	6	日	リーダー研修会

## 「こんな鳥を見たい！」という方へ

本会ウェブサイトのトップページ左側のメニューの中に「探鳥会出现鳥検索」というのがあります。最近5年(2014～2018年)の県内探鳥会のデータに基づき、見たい鳥がどこの探鳥会で出たことがあるのか調べられるデータベースです。出る確率が高くて希望をかなえられそうな探鳥会がすぐに判りますので、便利です。鳥を「科」から指定するのがちょっとマニアック。なお、名前を出てこない鳥は、残念ながらどこの探鳥会でも記録されていないということです。

## 野鳥分布調査について (調査部)

3月号でお知らせしたように、いよいよ5月11日から調査を始めます。皆様の絶大なご協力をお願いします。

今回の調査がこれまでと最も違うところは、皆様からいただいたデータの取りまとめに調査部が運用している「野鳥データベース」を活用するのを前提として始めることです。これにより、データの取りまとめが迅速に行え、調査終了から報告書発表までの期間を大幅に短縮できます。

このため、野鳥データベースへの入力を念頭に、報告の仕方を従来とは変えます。

報告の仕方、最も変わるところは、調査場所ごとに1日単位で記録された鳥を報告していただくことです。(1日単位と言っても、1日中見てみてくださいという意味ではありません。)同じ場所を調査期間中に何回か報告していただいても、あるいは1報告ごとに別の場所を報告していただいても、どちらでも結構です。(過去の調査では、調査場所ごとに調査期間の通算で記録された鳥を報告していただいていた。)

上記のことから、今回は複数の報告方法を用意します。その中から選んで報告をお願いします。

報告方法は次のとおりです。

### ① 『しらこぼと』3月号に掲載された様式

調査場所で観察した1日分を1報告として提出していただくもので、郵送やFAX送信などを想定しています。何回報告していただいても結構です。恐れ入りますが、郵便や電話の費用は各自でご負担ください。『しらこぼと』の最終ページにある当会の住所やFAX番号に、「調査部あて」と明記してお送りください。

### ② 支部ウェブサイトからダウンロードする様式

メールで報告していただくExcel様式ファイルを各種準備中で、4月下旬までにはダウンロードできるようにします。観察場所の報告は、地名、メッシュコード、緯度経度(単位:十進数、度分秒)から選択できます。特徴は、何回分か、あるいは、何か所分かの調査データをまとめて報告できる様式を用意することです。いずれのファイルにもデータ入力要領の説明を入れますので、よく読んでお使いください。送信先は、当会調査部 research@wbsj-saitama.org です。



# 行事報告

11月23日(土、祝) 東京都 東京港野鳥公園 Young

参加: 17(会員10)名 天気: 雨

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン アオアシシギ イソシギ ウミネコ トビ ハイタカ オオタカ ノスリ カワセミ ハシブトガラス メジロ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ (31種) 野鳥画家の神戸宇孝氏を講師に迎えスケッチ会を開催。前半は東京港野鳥公園の概要と、野鳥スケッチのポイントを受講。後半は室内から野鳥をスケッチした。今までの観察では気づけなかったことに、絵を描くことで気づくことができ、スケッチのスキルアップにも繋がる会となった。(廣田純平)

11月23日(土、祝) 本庄市 坂東大橋

雨のため中止。(新井 巖)

11月23日(土、祝) 志木市 柳瀬川

雨のため中止。(小林みどり)

11月24日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 13(会員10)名 天気: 曇時々雨

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ オオバン オオタカ カワセミ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (35種) 天気は回復という予報を信じて決行。しかし、雨は結局最後まで止まず。鳥の動きは意外に活発で、カワラヒワの群れが畑から一斉に飛び立つ様子は圧巻。クイナは盛んに鳴くが姿を現さない。藪の中にアカハラ、人家の庭でシロハラの声。冬鳥が揃ってきた。(小林みどり)

11月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 15(会員14)名 天気: 雨後曇

カルガモ コガモ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン ヒメアマツバメ イカルチドリ イソシギ カワセミ コゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (36種+キツツキ科不明種1) (番外: ドバト) 台風19号により探鳥コースでは中州の木や土はほぼ流され、一面石ころだらけの河原に。幸いカワセミやイカルチドリなどの常連は健在。ただ、オオヨシキリには住みづらそう。一方、イカルチドリやコチドリにはいい環境になったかもしれない。(長谷部謙二)

11月27日(水) 戸田市 彩湖

台風被害のため中止。(小林みどり)

11月30日(土) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 43(会員41)名 天気: 晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン セグロカモメ トビ チュウヒ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ (43種) 10月は中止で、今季初の探鳥会。谷中湖ではカイツブリ類3種、そしてマガモやヒドリガモの中にミコアイサ。頭上にはトビ、ノスリ、対岸にはチュウヒも飛んでくれた。中の島からは、いつものコースが通行止めで、直接史跡ゾーンへ向かう。ジョウビタキやシジュウカラ、ホオジロに混ざって何とかベニマシコも姿を見せてくれた。(佐野和宏)

11月30日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 31(会員20)名 天気: 快晴

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ ハシビロガ

モ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ  
 カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバ  
 ト カワウ アオサギ オオバン トビ オオタ  
 カ ノスリ コゲラ カケス ハシボソガラス  
 ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバ  
 リ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ ツグ  
 ミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ  
 ホオジロ カシラダカ (34種) (番外：ドバト)  
 今季初の狭山湖を印象付けたのは100羽近いオカヨ  
 シガモの群れだった。これだけの群れが観られた  
 のは、移動途中ならではのことか？ カンムリカイ  
 ツブリは例年並みだったが、カモ類や小鳥類は個  
 体数が少なかった。「時として思わぬ鳥を観るこ  
 との ありて楽しき野鳥観察」 (石光 章)

12月1日(日) 北本市 石戸宿

参加：44(会員42)名 天気：晴

キジ ヨシガモ マガモ カルガモ コガモ キ  
 ジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ  
 バン ヒメアマツバメ トビ ツミ ハイタカ  
 オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ モズ カ  
 ケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイ  
 タダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨ  
 ドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツ  
 グミ ルリビタキ ジョウビタキ ハクセキレイ  
 カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシ  
 ラダカ アオジ (42種) (番外：ガビチョウ) カ  
 ワセミの池を過ぎてメジロの群れ。シジュウカラ、  
 コゲラ、ヤマガラの群れが続き、最後にエナガの  
 群れ。高台の草地上で上空を舞うヒメアマツバメ。  
 その後ツミとハイタカと一緒に飛翔。河川敷では  
 オオタカが舞った。北里の森沿いのヨシ原を次々  
 に移動するカシラダカ。高尾の池にヨシガモ♀2  
 羽。42種は、12月の最多タイ記録。 (吉原俊雄)

12月1日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：61(会員47)名 天気：晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガ  
 モ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンク  
 ロハジロ ミコアイサ カイツブリ アカエリカ  
 イツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブ  
 リ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コ  
 サギ オオバン ユリカモメ ミサゴ ノスリ  
 カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシ  
 ボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒ

ヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ  
 ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ  
 キレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シ  
 メ ホオジロ アオジ (45種) (番外：ドバト)  
 序盤はベニマシコで大盛り上がり。目の前でお食  
 事中。そして、クライマックスは芝川第一調節池  
 から離れようとした瞬間に訪れた。当探鳥会初見  
 のアカエリカイツブリが登場。そして、上空には  
 ミサゴも！ 上々の探鳥会となった。(須崎 聡)

12月5日(木) 加須市 渡良瀬遊水地

参加：27(会員27)名 天気：晴

キジ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ  
 オナガガモ コガモ キンクロハジロ ミコアイ  
 サ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト  
 カワウ アオサギ ダイサギ オオバン ツルシ  
 ギ トビ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ  
 モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ム  
 クドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセ  
 キレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ  
 ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュ  
 リン (43種) 台風19号の影響による通行止めは、  
 前日に解除。いつものコースを歩けた。湖のカモ  
 類はやや少ない。5日前には観察できたハジロカ  
 イツブリも姿を現さない。まだ越冬地として定着  
 する鳥が少ないのだろう。シギ1羽が登場。じっ  
 くり観察し、ツルシギと判定された。ベニマシコ  
 は多くの参加者に見てもらえた。(小林みどり)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加：41(会員37)名 天気：快晴

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト  
 トビ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハシボ  
 ソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨ  
 ドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シ  
 ロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセ  
 キレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホ  
 オジロ カシラダカ アオジ (28種) (番外：ガビ  
 チョウ) 快晴微風温暖と絶好の探鳥日和だが、  
 鳥の出は芳しくない。シメ、ツグミ、モズ、カワ  
 ラヒワなどなじみの鳥を見ながら進む。森の入り  
 口でカシラダカが迎えてくれた。池に着くとカワ  
 セミが至近のガマの穂にじっと止まっていて、全  
 員が堪能したのでまずは良かった。(新井 巖)



### ●3 団体が県などに要望書提出

(公財) 日本野鳥の会(本部)、(公財) 世界自然保護基金ジャパン、(公財) 日本自然保護協会の3団体は、鳩山町熊井の森で太陽光発電事業の計画が進んでいることに対し、2月22日埼玉県に、

- 1, 熊井の森での太陽光発電事業を抑止するための措置を講じること、
- 2, 県内の保全上重要な里山での太陽光発電事業を計画的に抑止すること、
- 3, 里山の保全と両立できる形で太陽光発電の導入を図っていくこと、

鳩山町には、

- 1, 熊井の森を保護地域とし、太陽光発電事業を抑止すること、
- 2, 保全上重要な里山での太陽光発電事業を計画的に抑止すること、
- 3, 里山を活かした地域づくりを進めること、との要望書を提出しました。

### ●彩湖の復旧作業続く

戸田市の彩湖・道満グリーンパークは3月1日に全面復旧したとの報道がされましたが、湖の北端部、さいたま市の荒川彩湖公園では、流入堤の工事などが続けられています。当会が探鳥会の集合地点としていた駐車場やトイレなどはまだ当分の間使用できない状態が続くとのことでした。

### ●ごめんなさいコーナー

2月号5ページ「野鳥情報」欄、右段下「川越市南古谷駅付近E35. 89758 N139. 54014」とあるのは、「N35. 89758 E139. 54014」の誤りでした。

### ●会員数は

3月2日現在 1,545 人です。



### ●2月の活動

2月8日(土)大宮市民の森内・見沼グリーンセンターで開催された見沼たんぼ桜回廊サポーター制度勉強会に出席(浅見徹)。

2月8日(土)3月号校正作業(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

2月14日(金)さぎ山記念館で開催された見沼・さぎ山交流ひろば令和元年度第4回運営会議に出席(浅見徹)。

2月16日(日)3月号をpdf化し、本部総務室に送信、全国配布を依頼した(海老原美夫)。

同日(日)役員会(司会:長谷部謙二。1-4月行事予定の変更、5-8月行事予定など)。

2月17日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』3月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

### ●4月の予定

4月4日(土)編集部会(午後4時から)。

4月11日(土)5月号校正(午後4時から)。

4月12日(日)普及部会(熊谷市荒川公民館学習室にて午後1時30分から)。

4月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。

4月19日(日)役員会(午後4時から)。



いつもは事務局に集まって進めている編集会議だが、新型コロナウイルス対策として、今回に限り、メールの交換だけで進めることになった。慣れないことなので、はたしてどうなるのか、未知数の部分もあるが、ま、何とかなるだろう。来月は新型コロナウイルスの問題も収束し、またみんなで顔を合わせることを期待している。(ebi)

しらこぼと 2020年4月号(第433号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 [office@wbsj-saitama.org](mailto:office@wbsj-saitama.org)  
 編集部への原稿 [yamabezuku@wbsj-saitama.org](mailto:yamabezuku@wbsj-saitama.org) 編集部への野鳥情報 [toridayori@wbsj-saitama.org](mailto:toridayori@wbsj-saitama.org)  
 住所変更などの連絡は [gyomu@wbsj.org](mailto:gyomu@wbsj.org) または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635  
 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社